

はるーやほー

お元気でやておますか？

わたしはお元気ですよ。

みんなのことやからきっと心配してくれるでしょ？笑

ぼくのライブにきてくれるみんなをみておもうのは、「ほんと真面目だなあ」です。で、「いい人だなあ」です。

みんな、ライブ前ぼくが出てくる前、緊張してるでしょう？あれやめて！って言うてもしょうがないんだけど、あのね、ぼくも緊張してるのよ。笑

もうね、緊張と緊張で会場の空気がピヤ～ってしてるのよ。

それを緊張してるぼくが必死でほぐそうとするのよ。真面目だから。笑

そうです。うたうひとと、それをみにくるお客さんの性質は、不思議とどこか似るんですよ。ね。

ライブというと、だいたい受付でワンドリンク500円とかいただいたりしますよね？場所にもよりますが、アルコールからソフトドリンクまで数種類から好きなドリンクを注文いただきます。ぼくのワンマンライブのアルコール率、ほぼ0パーセントなんです。会場の方にも、「こんなことはありません。笑」と言っていたりします。

ぼくのお客さん、みんなゲコなの？ぼくアルコール一滴も飲めないんだけど、そんなとこまで似るの？

みんな、真面目に聴こうとしてくれてるんだなあ。と、うれしおどろき39歳です。

のんでいいんだからね、お酒！それぞれが好きに音楽をその場をたのしんでもらえるのがいちばんうれしいんですから。

でもぼくのつくる音楽、ライブが、お酒を呼ばないのかもしれない。この線が濃厚かもしれない。だって、ぼくがお酒のんでライブ楽しむとかしたことはないんだもん。大抵、コーラとかジンジャーエールとかなんだもん。もっと言えばライブ、行かないもん。家好きだから。

だからうれしいのよね。みんな靴履いてさ、メイクしたりさ、乗り物のってライブに足を運んでくれてさ、お金払って緊張してさ。んで緊張してる人でてきてさ。笑

ぼくは今みなさんからいただいたお金で暮らしています。カラオケの印税だったり、CDの売り上げだったり、ライブの出演料だったり。

で、この関係性っていうところ、ずっともやもやしてたんです。

どういうことかと言うと、今のぼくのライブに来てくれる方って、もう大抵顔見知りです。何年も、下手すりゃもう20年近く定期的に会っています。それで終演後におはなししたりするので、なんとなくその方がどういう人間なのかっていうのを垣間見ることができます。年一回会うか会わないかの親戚より会ってるし、はなしもしてるし、時には親戚にもしないはなしをしたりお手紙をいただいたりもします。ぼくは友達と遊びに行ったりもあまりないので、家族の次に会う人が、よく来てくれるお客さんなのです。

そのみんなからお金をもらうのが心苦しかったりもしました。みんなが汗かいて稼いだお金を、いただくことがなんとなく苦しかったんです。

でもそれは違うんじゃないか、と思うようになりました。友達の経営している美味しいご飯屋さん、パンが大好きなんだろうなというパン屋さん、やさしさがケーキにでちゃってるケーキ屋さんにお金を払うのって、うれしいお金の使い方。一方、まずくてえらそうなご飯屋さん、気持ちの悪くなる店、なんかに使うお金って同じ1000円でもぜんぜんちがう。

みんなにとってのうれしいお金のつかいどころになれるのなら、そんなうれしいことはないな。と思ったんです。

それと同時に、それに見合うコンテンツを作りたいと考えるようになりました。

人生って、いろいろあるじゃないですか。100人いたら100通りですよ。

ぼくのライブにきてくれた人が、よし明日から頑張ろうとか、よし明日は休もうとか、よし明日も生きようとか、よしあの人に連絡してみようとか、よし別れようとか、一步踏み出す、逆に踏みとどまる、あなたにとっていいきっかけになったとしたら、すごくしあわせです。

ぼくはみんなの役にたてたのかもしれないという気持ちに支えられて生きられています。

「よし、北川けんいちの次のライブまで〜」って、そういう風に思ってもらえるなら、ぼくは次を絶対にやります。

おんがくってすばらしいなって僕自身おんがくに救われてきたから思うんですが、それをもっとすばらしいものに仕立てることもできると思っています。

それはストーリーです。

おんがくってその時々、いつそのおんがくに会うかって重要で、その時聴いたうたが、その時の自分とリンクしていたら、「えええ！なんでわかるの？」とか「このうた、おれのための歌や！」と心が震えたりしますよね？

そうすると以後そのうたを聴くと、その時のじぶんの気持ちが蘇ったり、そのうたをきくとどんよりとした心がリセットできたりしますよね。

うたにそういうものが乗ると、その人にとっておもいでの歌、たいせつな歌、になります。

ライブ、なんかもそうだとおもいます。「あのライブの一曲目にやった歌だ！」とか、「あのライブの時はじめてきいた新曲だ」とか。

そして、つくる側にとってもたいせつなことがあります。フィクションで曲を書く方、ノンフィクションで書く方。ぼくはほとんどがノンフィクションの曲なのですが、その曲と人生が一貫していること。それがうたの説得力になり、魅力になると信じています。そして、それも曲を仕立てるひとつの方法だと。

もしかしたら、自信がなかったのかもしれない。みんなからお金をもらうことに。うたう人というところから、少しずつフェードアウトしていこうと、思っていたから。

そこから考えると、ぼくの今のこの状況、自分で信じられないくらいです。

やるのかやらないのか、やる気があるのかないのか分からない状況でも、支えてくれたみんなのおかげです。

その日のライブがどんなにすべっても、ぼくのところに来ておはなししてくれて、次のライブもいつものようにきてくれて、声がでなくてもいつものように接してくれて、優しい。優しすぎる。。。

ソロになってしばらくは、じぶんのスタイルの試行錯誤の繰り返し。でるライブでるライブ全部する。あの頃を乗り越えられたのは、ほんとみんなのおかげです。やめなくてよかった。。。

ずっと、ずーっと、みんなを救いたい。困っている人を助けたい。なんて思っていたんですけど、今は思わないです。いや、思ってるんだけど。結果そうなれば。です。うーん。結局のところ、ぼくができるのって、応援だけ。みんなの人生を生きるのはみんなでおなじライブでも100人いりゃ100人の感想を持って、100通りの解釈がありますよね。その、ひとりひとりがなにを求めて来てくれているのかも、ばらばらですもんね。だから、ぼくのライブが、うたが、何かのきっかけになったり、その場だけでも嫌なことを忘れられたり、なんでもいいんですけど、役にたてれば。

サインなんか書かせてもらうときに、その方の挑戦だったり、何かに向かっていこうとしているはなしを聞かせていただいたりすると、サインの横に「応援してる！」って書いてます。応援する。それしかできないのよね。

そうそう、なんでまた「おんがくをしっかりやろう！」と思えたかということ、「お客さんと一緒にぼくのおんがくを作っていくのってたのしいんじゃない？」と気づいたんです。ぼくのおんがくが重たい腰をあげられたのはこれが大きかった。毎日15時間くらいゲームをするというここ数年の生活をきっぱりやめられたんです(これ本当にありがとうございます。)

みんな考えてさ、なにかしらの結果とかがでたりして、それをみんなでもよこぶことができたなら、めちゃうれしくない？って、思ったの。もし一緒によこぶことができたなら、おれ泣いちゃうとおもう。想像しただけで...だめだ。

あの霜降り明星がM-1とって、大阪の漫才劇場に凱旋した時に泣いてたでしょ？あれです。ぼくにとっては、京都のSOLECAFE。それを、ゆめみてます。

いろんなアーティストがいて、いろんなおんがくがあるから、大好きな歌、たいせつな歌ってみんなそれぞれにあるやろうけど、そんなうたをうたいたいなあ。そこに入れたら、しあわせだなあ。

おなじ時代に生きてて出会えて、生で聴けてってうれしいもんなあ。世界広いけど、おなじ国に生まれて、みつけてくれてありがとうだなあ。

もうさ、曲あんまり好きじゃないけど人が好きってちょっとどうかと思っててんけどそれでもいいよね。人のファンになってくれたらさ。

今「北川けんいちのファンです。」ってちょっと言いにくいやん。「誰それ？」ってなるやん？むしろそうなるの見越した上で言うとしたら「元ロードオブメジャーのボーカルの北川けんいちがソロでやってそのファンです。」やん？長いやん説明。んで返ってくる言葉も

だいたい想像つくやん？(ってじぶんで言うのがつらくないくらいおれ氏やる気メンタル健康マンです。)

やから大きな声で「北川けんいち好き！」って言わせてあげたいなあ。どうどうと。

その辺、すまん。まじすまん。

やから、一緒に考えよ！おれにまかせとって気づいたらこの状況やで。まかせてたらまずいの分かってるよね。

よし、ほんで一緒に泣こう。笑